

奈良大学史学会は、奈良大学文学部史学科・大学院文学研究科に所属する学生・大学院生・教員（元教員・非常勤の教員も含む）をおもな会員として構成された学術団体です。本号が四十一号になりますので、すでに不惑を越えた歴史をもつ団体となります。

会報でも紹介しておりますように、団体の活動としましては、学生委員の主催による在学生を対象とした体験ツアーや学園祭である青垣祭での展示発表のほか、学科と史学会共催による特別講義など、バラエティに富んだ催しが毎年おこなわれていきます。

また、学術研究の成果発表の場としては、本誌がその役割りを担ってきました。もつとも、ごく最近までは教員の研究成果が掲載される場合が多かったのですが、前号四十号より卒業論文のうち優秀論文として表彰されたものが掲載されるようになりました。四十一号で申しますと、大橋論考・濱松論考・高村論考がそれにあたります。

各氏の進路は一般企業・大学院・学芸員など一様ではありませんが、活字論文になった以上は、大学での学びの成果として、あるいは、これからの研究の基礎として、広く批判の

対象になると同時に、後からつづくものたちへの道しるべになるものと思います。

このように、不惑を越えた奈良大学史学会と『奈良史学』は、さらに高みをめざして、卒業生や修了生の研究成果の場としても参加を募ってまいりたいと考えています。おりしも、二〇二三年度の特別講義にお招きした石田真衣先生は史学科の卒業生です。今後とも、石田先生のように、各界で活躍されている卒業生・修了生と在学生との交流も密にしていきたいと思えます。応援のほどをよろしく願います。

（河内）

## 奈良史学 第四十一号

二〇二四年二月一日発行

発行者 奈良大学史学会

会長 山口 育人

奈良市山陵町一五〇〇奈良大学文学部内

〒六三〇一八五〇二

TEL 〇七四二一四四一―二五十一（代）

振替 〇〇九九〇―二一三二五九四九

印刷所 共同精版印刷株式会社

奈良市三条大路二丁目二一六

〒六三〇一八〇一三